



リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

No.82 岡山ろうさい病院 医療安全管理者 看護師長 大橋美由紀様



【大橋様】

■ 病院の沿革と概要

昭和 30 年 3 月	内科・外科・整形外科の 3 診療科と病床数 30 床をもって診療開始
昭和 48 年 3 月	岡山労災高等看護学院(現岡山労災看護専門学校)完成
平成 20 年 2 月	病院機能評価 ver.5.0 認定
平成 25 年 3 月	新館完成 (7 階建て)
平成 26 年 3 月	病院機能評価認定 (機能種別版評価項目 3rdG:Ver.1.0)
平成 28 年 4 月	患者サポートセンター開設
	病床数 : 358 床 (うち ICU10 床、HCU8 床)

■ 病院理念・基本方針

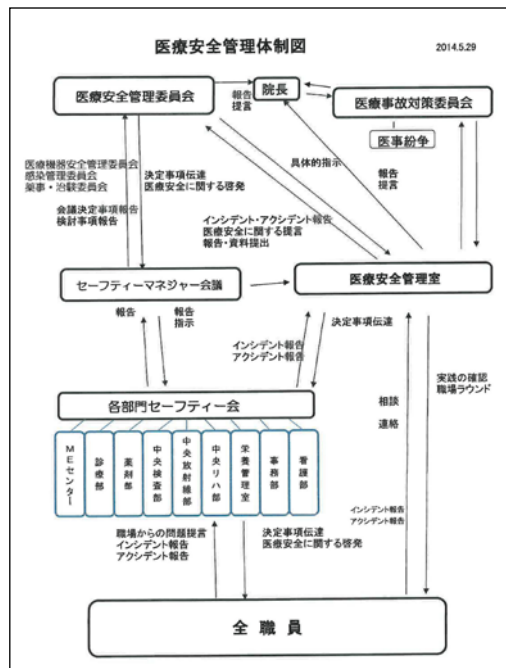
【病院理念】 『地域の人々に最適な医療を提供し、
働く人の健康を守ります』

- 【基本方針】
- 1.患者の権利を尊重し、尊厳を守ります。
 - 2.地域の中核病院として、一人ひとりに最適な医療を提供します。
 - 3.働く人の健康を守り、社会復帰を支援します。

1. 組織体制について

①医療安全に関する組織体制についてお聞かせ下さい。

当院では、院長の直下に医療安全管理室があり、メンバーは統括責任者(室長)、医事課長、医薬品安全管理者、医療機器安全管理者、看護部門の担当者と医療安全管理者の計 6 名で構成されています。



②大橋様の主な業務内容についてお聞かせ下さい。

私の業務は医療安全管理者の業務規程のもと日々の仕事を行っております。

中核的業務としては、インシデント・アクシデントレポートの分析、医療事故予防策の立案・提案、また、定期的に行われる医療安全管理委員会やセーフティマネジャー会議を運営し、各種委員会との連携を図ります。ほかにも、指針やマニュアルの作成・見直し、研修の企画運営や講義などの教育に関すること、院外からの情報収集と対応を行います。また、事故発生時の対応、患者相談窓口から依頼がある時も対応します。医療安全管理者の業務は、組織横断的に、各部門の協力を得ながら行います。

2. 転倒・転落事例情報の収集と対策について

①事例情報の収集はどのような流れですか？

情報収集は前日のインシデントレポートが電子カルテにて報告されます。内容をチェックした後、現場での調整が必要な場合は部署に出向き、各部署の責任者と面談し対応策を考えていきます。また、看護部門では、師長が集まるお昼のミーティング時に事例を共有します。

②近年の事例発生件数はどのように推移していますか？またその原因はどのようにお考えですか？

発生件数はここ3年ほぼ横ばいとなっています。高齢者・認知症の患者様が増えている現状を鑑みると、センサー類の充足もあり、防御に努められていると考えます。昨年度の原因は分析中ですが、作業がマニュアルから外れ、それがインシデントにつながったという単純な事例が多いように感じます。また、低床ベッドに変更後若干少なくなったと思います。

③事故防止のための人的対策はされていますか？

スリッパによる転倒事故が多かったため、現在は入院時の説明に使用する「安全な入院生活を過ごすために」というパンフレットを見直しました。予約入院の場合は、事務部門で重点的に案内をしています。また、病棟では「転倒防止に関する質問票」をご家族に記入していただき、その質問票を参考にしながら患者様のアセスメントを行います。アセスメントの評価タイミングは入院日、手術当日、1日後、転倒時、病棟を移った時となっており、アセスメントの危険度2や3の方には転倒・転落の対策を個別に立てます。現状では、入院患者の高齢化や認知症患者の増加により、危険度2や3の患者様が多く今後の転倒・転落対策の一番の課題となっています。他には、セーフティマネジャー会のメンバーが危険予知・予防の視点でラウンドを毎月行っています。

安全な入院生活を過ごすために

入院生活を始める病院の環境は、これまで住み慣れた家庭とは異なります。さらに病気やけがによる体力や運動機能の低下が加わり、思いもかけない転倒・転落事故が起ることも少なくありません。高齢の方は特に注意が必要です。そこで、次のようなことに注意をお願いします。

1. 履物について **スリッパはご準備下さい!**

○スリッパは滑りやすく、脱げやすく、転倒や転落の原因になります。履きなれた靴、または、かかとを覆う安定感のあるものを選びましょう。

当院の売店には、転倒予防の「あゆみシューズ」を揃えています。

- つま先にくい
- 前足履き難車 S~3L サイズ
- 軽い履き心地 2052円(税込)
- 高いつま先

などの特徴があります。各種サイズ、売店に見本がありますので、お履きになってみてください。

2. ベッド上、ベッド周囲での生活の注意点

○ベッドの上で立ちたり、身を乗り出して物をとろうとすると、バランスを崩しやすく危険です。

○高調整テーブルはキャスターがついていて、支えにすると不安定で危険です。

○ベッド網をしっかりと持ち、動きまわらず。

3. 夜間トイレに行くとき

○夜間前、トイレを済ませましょう。

○用子が無いので、心配な方は遠慮なく、看護婦にお知らせください。

○体調に合わせて、夜間のポータブルトイレを設置することもあります。

○安全のため、フットペダルをつけておきましょう。

4. 車椅子について

○車椅子に乗り降りする時は、必ずブレーキをかけましょう。足を乗せる部分に立つと、大変危険ですので、足を乗せる部分を持って、乗り降りしましょう。

5. 睡眠・精神安定剤、利尿剤、血圧の薬、痛み止め、麻薬を服用している時

○トイレを済ませてから、服用しましょう。

○夜中に目が覚めると、からつく危険があるので、注意してください。

○からつく時は、看護婦が付き合いますので、ひとりで動かし、看護婦にお知らせください。

6. 運動

○ベッド上での生活が長くなると、足の筋力が予想以上に低下します。

○ベッド上で、足の筋、足指、膝の運動を行いましょう。

7. その他

○フースコルを手元へ置きますので、医師の許可がない動作や不安な動作は行わず、看護婦を呼んでください。

○体状や体力等によって、転倒や転落の危険性が高くなる場合、必要に応じて、手動センサーや電動ベッドなどの様々な介護用具を使用させていただきますことでもありますので、ご理解をお願いします。

ご心配なことがありましたら、遠慮なく医師や看護婦にご相談ください。

転倒防止に関する質問票

患者ID: 500099422 生年月日: 昭和37年11月11日 科名: 内科
フリガナ: 大橋 功治郎 (29歳 0ヶ月) 職種: 医 子スト2
患者氏名: テスト 入院2 性別: 男 籍貫名: 福岡 県

ご入院にあたり「暮らさないで暮らさない」を旨に、当院入院前チェックリストを御覧下さい。ご本人・ご家族と共に読んでいただき「暮らさない」を旨に、ご協力をお願いします。新しいお薬の処方や変更があるものがありましたら、チェック欄に○をつけてください。記入された用紙は、入院日、病棟の看護婦にお渡しください。ご不明な点がありましたら、看護婦にお尋ねください。

チェック欄	病 房	意 見
<input type="checkbox"/>	1階病棟に暮らさない、ベッドから落ちたことがある。	
<input type="checkbox"/>	目が眩に入らぬため、日常生活で落ちることがある。	
<input type="checkbox"/>	目が眩に入らぬため、日常生活で落ちることがある。	
<input type="checkbox"/>	不安に不安がある。	
<input type="checkbox"/>	骨や関節が痛むが、または痺れがない。	
<input type="checkbox"/>	足腰が弱い。	
<input type="checkbox"/>	自由に歩ける。	
<input type="checkbox"/>	立つ時や歩行時に、ふらつきがある。	
<input type="checkbox"/>	新しいシューズや靴、履き難いものがある。	
<input type="checkbox"/>	転倒する時に手助けが必要である。	
<input type="checkbox"/>	最近、不安な心配ごとがある。落ちるかもしれないことがある。	
<input type="checkbox"/>	最近、忘れっぽいことがある。	
<input type="checkbox"/>	最近、筋力や理解力が落ちてきていると感じることがある。	
<input type="checkbox"/>	自分で歩けない気がする。	
<input type="checkbox"/>	下記のお薬を使用している。	
<input type="checkbox"/>	睡眠剤・安定剤	
<input type="checkbox"/>	利尿剤	
<input type="checkbox"/>	麻薬の薬	
<input type="checkbox"/>	手動	
<input type="checkbox"/>	高調整の	
<input type="checkbox"/>	電動	
<input type="checkbox"/>	電動ベッドに2回以上行くことがある。	
<input type="checkbox"/>	床・壁が間に合わないことがある。	
<input type="checkbox"/>	ポータブルトイレを使用している。	
<input type="checkbox"/>	トイレの網、手助けが必要である。	

3. 医療安全に関する研修および他院との連携について

①医療安全に関連して、過去どのような研修を実施されましたか？

昨年はどなたでも自由に参加していただけるよう、医療安全週間の期間中に転倒・転落予防セミナーを病院のロビーで行いました。転倒・転落の知識があまりない患者様や来院者が熱心に聞いておられました。

研修を行う際に毎回感じるのですが、勤務時間がバラバラのスタッフの参加率を増やすのに苦労をしています。昨年度は出席カードを作成し出席



ロビーでのセミナーの様子

者にはスタンプを捺印するようにしました。チーム内で研修参加を呼びかけるといった効果もできてきているようなので、今後の参加率UPを期待しています。

また、今年度は同じテーマの研修会を日時をずらして複数回行ったり、パートさんが参加しやすいようランチセミナーを企画したりと、勤務体系にとらわれず出席できるように考えているところです。



出席カード

裏面には研修開催予定日が印刷されています

②地域の病院様と医療安全に関する連携はされていますか？

労災病院グループでは近畿、中国、四国のブロック内で10病院の安全管理者が情報共有・報告・相談など行う集まりが毎年あります。また、労災病院本部（神奈川県川崎市）でも毎年、医療安全対策者会議を開催して情報交換を行い、各集合研修で医療安全対策についてグループワーク等行っています。地域では、岡山県看護協会主催のリスクマネージャーの集まりが毎年あるので情報共有を行っています。

4. 離床センサーについて

【岡山ろうさい病院様のご導入機種】

コールマット・コードレス 5台

① どのような種類の離床センサーを保有されていますか？

ベッド一体型の離床センサー40台、マット15枚、クリップタイプ21個を保有しています。クリップタイプの離床センサーは患者様が取り外してしまうことが多くあり、現在はほとんど使用していません。ベッド一体型離床センサーは設定を細かく設定できるので便利ですが、設定の難しさや電源を入れ忘れなど、注意点があり、ベッド1台につき1枚マニュアルを添付しています。テクノスジャパンの「コールマット・コードレス」は、転倒リスクが高い方にベッド一体型の離床センサーと併用したり、行方不明のリスクがある方に、出入口付近で使用したりすることが多いですね。コードレスなので、コードに引っかかる危険もなく便利です。

② 離床センサーの運用の悩みや工夫

離床センサーを有効に活用するためには、使用方法と注意事項をスタッフに伝え続けることが大切だと考えています。「製品」は患者さんを護ってくれません。使用者は「製品」をまず理解することが大切です。人が「製品」に使われるものではないということをスタッフが認識し、正しく使用して初めて効果が出ると思っています。今後も継続し、現場で有効に離床センサーを使えるシステム作り・ルール変更など行っていきます。

5.最後に何か一言お願いいたします。

医療の現場では、転倒・転落はじめ、事故なく、安全な状態で医療を実践すること、また、勤労者の方々が1日でも早く職場復帰できるためにも安全で質の良い医療を受けていただくことが大切だと思っています。

患者サポートセンターはじめ、病棟や各部門との連携を整えていくことが、医療安全のポイントだと考えていますので、患者様のためにより一層努力してまいります。